



HOSHIBA

医療法人社団星秀会

ほしば歯科医院ニュースレター

Vol.33

来ましたね、梅雨の季節。青空が広がる日ですら空気を重く感じたり、サラッとした汗が出てこない気がします。去年はサッカーのワールドカップが行われていましたが、海外チームにとってはずいぶんつらい環境だったのではないかと思います。強豪と言われたチームが早々に敗退したこともその辺に原因があったりして...



さて、先日ある講演会に行ってきました。テーマは「ソクラテス」(ブラジルのサッカー選手ではありません)。実に有意義な講演会でした。歯学部はい

わゆる「理系」の大学ですので、哲学の講義はかっこうの睡眠時間でした。しかも、まったく記憶にもありません、誰が教えていたかも。たしか野坂昭如が昔「ソ、ソ、ソクラテスカプラトンか～」と唄っていたコマーシャルがあったな～と思うほどの知識で聞きに行きました。

話を聞いていて、ソクラテスって現代にマッチした思想であると感じました。科学技術が発達した現代、すべてが解明したように感じてしまいます。医学はその代表例ですが、最新医学を持ってすれば治せないものはないと勘違いしてしまいがちです。

ソクラテスは、「無知の知」という言葉をあらわしています。技術の進歩によって多くのことが分かってきたことは事実ですが、すべてのことが分かったように思うのはおろかなことであると言えるのでしょうか。

また、現代社会は競争社会であり、ゆとりのない社会とも言われています。一方、ソクラテスは「佇む(たたずむ)」人であったといわれています。大勢が大きく流れていく中、立ち止まって考えることを大切にしていたそうです。こういう社会だからこそ、時代に流されず、本当に正しいことは何なのかじっくり考えなければならないのですね。ちなみに、道端でも突然立ち止まり、

思想にふけっていたそうです。ちょっと友達にはなれない気がします。

学生時代勉強していない分、新鮮な講演会でした。哲学っておもしろかったのですね。

✕ 胃ろうの医者 ✕

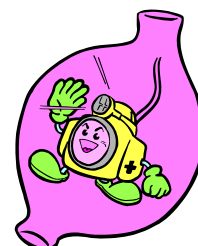
私の知り合いに「胃ろう」のスペシャリストで日本でも一、二を争うほどの腕前という医者があります(金沢市開業)。まだ若いのですが、医学界でも注目の人物のようです。

ところで皆さんは「胃ろう」とは何かご存知ですか? 口から栄養をとれなくなったり、栄養分が足りなくなるような時、おなかから胃に向かって穴を開け、管を直接胃に入るように設置して、そこから栄養分を入れていくのです。

先日、その医者が書いた文章を読んでいたら、胃ろうにして元気になった方の症例がいくつも出ていました。中には、まったく口から食べられなくなって胃ろうにしたところ、元気を取り戻して口から食べられるようになった人の例も出ていました。本当にすごいものです。

その文章の最後のほうに、「患者さんにはいつまでも口から食べる喜びを感じてもらいたい」と書いてありました。胃ろうの医者なのに不思議に感じませんか。その医者は、「栄養をとるための手段はいくつかある。口から食べることが一番だけど、それがだめでも胃ろうや中心静脈栄養など代わるものがある。しかし、口から食べる喜びは、口から食べないと得ることができない。」というのです。素晴らしいと思いませんか?

僕たち歯科の関係者は、噛むことや飲み込みの機能を助けることで口から食べることをサポートしています。元気な時には分からないことですが、口から食べることの喜びをいつも感じていたいですね。



✕ 口の中の細菌 ✕

口の中には多くの細菌がいます。ということを実感されている方はどれくらいいるのでしょうか。まあ、むし歯や歯槽膿漏（しそうのうろう）の原因も細菌ということは良く知られていることですから、「そうか、そうか」と思われる方も多いことでしょう。

さて、口の中にはいったいどれくらいの細菌が潜んでいると思われませんか。100？200？それとも1000？いやいや10000？実はそんな数ではありません。毎日歯磨きをして、きれいな口をされている方で3000億、不潔な方だと1兆という単位だそうです。どうですか、想像できますか？

口の中は元々細菌の繁殖しやすい場所です。湿度があり、温度も適度で栄養分（食べかすなど）も豊富にあります。さらに、歯と歯の間や歯ぐきの中に潜んでいる細菌は、歯ブラシも届かないためどんどん繁殖していきます。

この細菌をどのようにコントロールしていけばいいと思いませんか。大きく2つあります。1つは、いわゆる歯磨きです。ブラッシングをして口の中の汚れを取ると細菌の繁殖能力はグッと落ちますし、うがいによって多量の細菌が除去されます。

また、よく噛んで食事をすると「つば」がいっぱい出てきます。この「つば」には殺菌作用があり、口の中が無菌化されていきます。さらに、食べ物をしっかり飲み込むことができれば、胃酸によって一網打尽にされます。

さて、このような細菌はいないほうがいいと思いませんか？むし歯や歯槽膿漏になることもないし、肺炎の危険性も少なくなります。しかし、このような細菌にも一つの役割があるのです。

自然界は決して清潔な世界ではありません。細菌だけでなく、ウイルスなどもたくさん存在します。このようなものに対抗する力として人間には「免疫（めんえき）」という機構が備わっています。分か

りやすく言うと体の抵抗力とでも言いましょうか。この免疫力は、敵がいて初めて成長していくものです。自衛隊に例えるならば、世界のどの国も軍隊を持たず、戦争など起こりえなければ大きな組織はいりません。しかし、



明日にでもミサイルが飛んでくるかもしれないという状況であれば、現在の数倍の力を持った自衛隊が必要になるはずで

す。皆さんも身近に感じることはありませんか。昔はすごく不潔だったのにアトピーなどなかったのですが、最近は衛生的になったにも関わらず増えています。これは、生まれた時から清潔な環境であったために外敵に対する抵抗力の低下が原因と言われています。また、予防接種などもこの原理の応用です。

口の中には多くの細菌が存在し、人体に多少の害を与えることもあります。しかし、それによって人体の抵抗力が高められ、結果的に体を守ることもつながるのです。もちろん、多量の細菌を繁殖させる必要はありませんが、細菌とうまく付き合っていくことが必要なのではないのでしょうか。

ご意見はこちら

ほしば歯科医院へのご意見、ご感想、その他何でも受け付けております。どのような方法でも結構ですからお気軽におっしゃってください。

電話 03-3686-4657

ファックス 03-3877-7771（院長直通）

E-mail info@hoshiba.net

<http://www.hoshiba.net>

編集後記

梅雨が来るとすごく憂鬱になります。もちろん天気が悪く、空気が重たくなるせいですが、それだけではありません。すでに今年も半分過ぎてしまったことです。これから暑い夏が来て、ちょっと涼しくなったなあと感じたら一気に年末モードです。

最近、矢沢永吉の気持ちもわかる様になりました。「時間よ、止まれ〜」

ほしば歯科医院ニュースレター 第33号
発行日 2003年6月20日発行

〒134-0088 東京都江戸川区西葛西1-13-7
tel. 03-3686-4657 fax. 03-3877-7771

e-mail. info@hoshiba.net

<http://www.hoshiba.net>

発行責任者 干場貴二